

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成26年8月28日（木）

午後1時30分～3時30分

【会場】湖西市健康福祉センター 研修室

1 出席者

- ・ 発言者 湖西市において様々な分野で活躍されている方
6名（男性3名、女性3名）
- ・ 傍聴者 218人

2 発言意見

	項 目	頁
発言者 1	スポーツ推進委員会の活動報告	2
2	湖西フロンティア倶楽部の活動報告	5
3	アサリ漁業について	10
4	鷺津商店街協同組合の活動報告	12
5	起業等について	19
6	民生委員児童委員の活動報告	21
傍聴者 1	いじめの防止対策について	30
2	首脳サミットの会場について	30
3	トリウム発電の研究について	30
4	植栽について	31

<県知事挨拶>

静岡県知事の川勝平太でございます。今日は足元の悪い中を尊敬する湖西の市長先生、また県議会議員の先生、そして湖西は昨年、国内の消防操法の女性の部で日本第2位になった方を御存じですか。その方が確かさっきいらしたと。湖西を代表される方々がたくさん来ていただきまして誠にありがたく御礼を申し上げます。

今、紹介いたしましたとおり、これは知事広聴と、広く聴くということで、通称「平太さんと語ろう」ということになっておりますけれども、川勝平太に語るという会でございます。今回は湖西から6人の市民の代表の方々に壇上に上がっていただきまして、御自身の活動の御報告なり、抱えていらっしゃる課題なり、一緒に解決していこうとされている問題なりを語っていただきまして、そして語りっ放しにしないというそういう会なのです。

そのためにちょっと皆様方に対しては失礼ながら前に座らせていただいておりますけれども、湖西にかかわる問題はすべて、今日すぐ解決できないものは持ち帰って、そしてその対処法を皆様方に御返答申し上げるというそういうスタイルで臨んでおります。

もう既に30回以上、もっとも5年前からではございますけれども、しております、今日はこの湖西という文字通り太平洋と、そして美しい湖西連峰の山並みと遠江、最近『遠江八景』というのが編まれて、我々が編んだのですけれども、余りにその景色と文章が美しいというので、中日新聞から『遠江八景』1部1,000円で4,000部つくるそうですけれども、それほど美しい景観に恵まれている地域で、私ども抱えていらっしゃる問題を一緒に解決できると、あるいは御自慢をしっかりと聞かせていただくことを楽しみにして参りました。

若干時間長うございますけれども、今日は後ろの方々、顔が見えないんじゃないかということに誠に恐縮でございますが、3時半まででございます。よろしくお付き合いのほどをくださいますようお願い申し上げます。感謝の言葉といたします。本日は誠にありがとうございます。よろしく願いいたします。

<発言者1>

白須賀生まれの湖西市の中でも海の方です。県境に近いところの白須賀に生まれて、白須賀で育って、今私は今日の立場としては湖西市スポーツ推進委員会の委員長としてこの場に出させていただきます。よろしく願います。

そのスポーツ推進委員の話です。私は短大を卒業しまして、年がわかってしましますが、

もう 26 年、このスポーツ推進委員に、一昨年 of スポーツ振興法の改正で名前が変わっております。なじみの深い名称で言うと体育指導委員というものです。一昨年までは体育指導委員という形で活動してきました。ここ 6 年、委員長という立場でやらせてもらっていません。

私が委員長でいいのかというほど、何をしているのか、私わからないんですけども、日頃は市民一人一スポーツの健康増進、こういうことに関わっていく中で地区の皆さんにニュースポーツの講習会、出前であるとか、アメニティプラザで開いているところに皆さんに来てもらうとか、あとは「コーちゃんフェスティバル」、御存じの方もいらっしゃるかもしれません。チャレンジボール的な、子供さんから大人まで皆さんが参加できる形のイベントの企画運営をしたりとか、それから今話題になっているんですが、皆さん取り組んでいると思うんですけども、ウォーキングですね、早朝ウォーキングという形で 3 年間やってきました。

やっぱり毎年こういうことを続けているとマンネリ化ということが起こってきます。そういった中で、今年はちょっと趣向を凝らして、変えてやってみようという取組をしました。去年までは早起きウォーキング、実は 6 時に私たち集合して、6 時半から歩き始める。自分たちの中では随分早起きだと思って開催したところ、ずっと前、最初その会を始めたときに市長がいらっしゃってくださって、「私はこれは早起きではない」と言われたのが、すごく頭に残っているんですが、早起きとはもっと早いんだぞということをおっしゃいましたが、私たちの中では十分早起き、日曜日の朝 6 時からというのは、なかなか普段お休みのところなので、その時間帯を利用してやろうではないかという形で進めてきました。

でもそれもやっぱり逆に言うと、朝早い時間帯にそういうことをしていいのかというそういう事例も出てきましたので、ではもう 1 回、何が本当に健康的なことになって、活動できるのかということの取組を変えるという意味で、今年は日曜日の 9 時から 11 時半ぐらいをめどに、各地 3 カ所を回るペースで今年は進めています。名前も「ステップ・アップ・ウォーキング」という形で、自分たちがやる、そのときその場で長い距離を歩いて、ああよかったねで終わらないために、ストレッチをきちんとやるといいよ。ストレッチも補強的なこういう動きがあるよ、そういうことまでの指導を含めたウォーキング、こういうことがいいよという形のそういうちょっとワンランク上のものを目指そうじゃないかという形でやっています。

そういう日々の活動をやっている中で、実はちょうど 7 月 20 日に県のイベントというか、

スポーツ推進委員の実技研修会というのを湖西の当番地区ということで、アメニティプラザの方で開催する機会がありました。この日の参加人数というものが、県下から本当に南伊豆の方から、御殿場の方から、静岡の方、もちろん西部の方はたくさん参加をいただきまして、550人ほどの参加をいただきました。

当初は会合ということだけだったんですが、その実技内容を湖西の方で、最初アプローチをしたんですね。せっかく西の果てまで来てくださるので、私たちが考案して今進めてきたデカスポテニスというものとサンサンバレーという2つの競技があるんですが、それをデモ競技として昼休みにやらせてもらえないかと、そういう申し出をしましたところ、ぜひ実技内容として取り扱ってくださいという形で依頼が来ました。

でも今までかつて600人ぐらいの参加がある大会ですので、さあどうしようということになって、でもこんないい機会はないので、一同メンバーが奮起しまして、ルールの改正から見直し、それを600人の人たちにどうやったら効率的に伝えられるかということで、3月ぐらいから準備をしてきました。準備した甲斐があって当日は大成功をおさめ、県の事務局の方からも、少ない人数でこれだけのことができるんだというふうなお褒めの言葉をいただき、何よりだったと思っています。

私たち常日頃はこういう会をするときに当たって、やっぱり人が少ないというのがネックになっておりまして、たくさんの人たちを一同に何かしたい。なかなかこのスポーツ推進委員という名前を今言っても知られてないという実情もあります。新しいメンバーを募っていきたくても、なかなか賛同してくださるといふか、わかってやっていただけるといふのは難しいことになっています。

やめるに当たっては、暗黙の了解で、跡継ぎを見つけないとだめだとか、そうこう言っている中でいろいろな人は来ているんですが、それでも行った先々でいろんなそれぞれの顔を持って皆さん活動しているので、いろいろ自分たちを向上させる今回の実技研修会は、スポーツ推進委員の集まりでした。それをきっかけに市民の皆さんにもっとPRしていける何かをつかめたという会でもありました。それをきっかけに私たちはこれからも皆さんにもっといろんなことをアピールしていけたらなということを改めて感じました。

もう1つ、私は今スポーツ推進委員ということで関わらせてもらったのは、ジュニアスポーツクラブという中学生のことなんですが、私はずっとソフトボールをやっています。中学生からずっとやって、今も現役で全国大会目指して頑張っています。そういった中で地元の白須賀中学校でこの夏の大会に向けて3年生まで含めて6人しかいませんでした。

そういった中にたまたまスポーツ推進委員ということで、ジュニアスポーツの委員の方にも入ったという兼ね合いから練習に参加してきたということもあって、参加するようになりました。

気のいいソフトボール大好きなおばさんなんです。でも子供たちは本当に一生懸命やっ
ていて、でも中体連の大会って難しいんですね。唐突な話の持っていき方ですが、いろいろ制約があります。学校の子供たちってすごい一生懸命やっている。それを何かお手伝いできないかなというところで、でも私は何ができるんだろう。立場はスポーツ推進員というものがありません。それもあって、たまたまジュニアスポーツの話が来ました。そういった中で、みんなに何をしていたらつなげるのかなという思いでいろいろやらせてもらっているというか、本当に自分が楽しんでいきたいという思いで活動させてもらっています。

すごい自分が楽しんでやりたい活動で、もう1個おまけに言わせてもらおうと、和太鼓もやっています。和太鼓で演奏して、幼稚園の演奏会から、老人ホームさんの慰問みたいな形のものもあるし、企業さんのフェスタの演奏なんかも行かせてもらっています。そんな中で、そういうことをやっているということで、市内の中学の和太鼓の指導もさせてもらっています。

すべてに言えるんですが、あっちもこっちも出ているおかげで、「あっ、見たことあるおばさん」「あっ何とかをやっていたおばさんだよ」って、それぞれに声をかけていただけます。私が今いろんなことをぐるぐるぐるぐる、一緒にいる友達にはよく言われます、「止まったら死んじゃうよね」って。そんなことをしながら、でも市内の中で何か、どこかの不思議な縁で、地元のすごい深いつながりの中でこういうことができている自分がすごい幸せだなと思って日々活動しています。

何ってとりとめのない話でした。でも湖西の中で子供たちが今何していたらいいんだろうというのを深く考えられないです。でもその場で考えていくこともあります。でも知らなかったことを知れるという場、こういう場所に来ること、それもなかなかできないことなので、これからもこういう姿勢でいろんなことを取り組んでいけたらなと思います。ありがとうございました。

<発言者2>

湖西フロンティア倶楽部の発言者2です。よろしくお願いします。

初めに、川勝知事には日頃から自然保護活動に御尽力いただきまして、誠にありがとうございます。私たちの倶楽部は湖西市の青少年リーダーの育成と、地域の環境保護を目指して、今年で23年目を迎えます。主な活動としては、社会教育課からの委託事業の委託を受け、それから静岡県青少年指導者級別認定事業の開催、それから小学生を対象とした今川こども自然クラブ、これの企画運営等をやっております。

たまたま皆様方に今日お配りしました『県民だより』、この一番最後のページに私たちが今現在活動している今川こども自然クラブの活動内容を載せていただきました。こんな活動をしている中で、参加した子供が水の週間記念作文コンクールというのがありまして、このコンクールに応募したところ、県知事賞と内閣総理大臣賞をこの8月にいただくことになり、誠にありがとうございます。

豊かな自然は宝物です。自分たちの周りにある自然の恵みを楽しみながら守っていくことが現在求められていると思います。今川の上流ですけれども、ゲンジボタルやヘイケボタル、絶滅危惧種のナガレホトケドジョウやカワムツなどが昔はたくさんいました。しかし山の崩壊で徐々に数が減ってきています。この今川をいつまでもきれいに保護していきたいという考え方を持って、今、今川上流のおちばの里親水公園、この辺のごみ拾いをしたり、生物調査や水質調査、これを1年を通じて実施しております。

荒廃した森を整備した不動谷の森につきましては、再生した棚田で県の鳥サンコウチョウが「ツキ、ヒ、ホシ、ホイ、ホイ、ホイ」と鳴いている声が聞こえます。

また知波田地区のボランティア団体夢クラブ21の協力をいただいて、公園内を流れる今川のヨシ刈りや、知波田小学校ビオトープの会場でヨシ刈りを毎年行っております。

今回の発表に伴い、県西部地区政策局の局長よりリバーフレンドシップ制度の詳細をいただきました。今後はこの制度を活用していきたいと考えていますが、今川の下流は浜名湖護岸にかけてたくさんのヨシが生えております。とても私たちだけでは刈り取ることができません。今年は県議会議員さんの御尽力により、県の予算でそのヨシ刈りをやっていただきました。しかし1回やっただけでは成果は出ません。

そこで今日は2つのお願いをしたいと思っています。1つ目が、浜名湖の環境対策を含めて、今川のヨシ刈りと1年を通しての水質検査、こんなものを県として予算化して、毎年実施していただきたいというふうに考えております。

2つ目は、天竜浜名湖鉄道の知波田駅からおちばの里親水公園までの道路整備です。湖西連峰のハイキングコースとなっていますので、今川沿いに自然を満喫しながら安全に歩

ける遊歩道が必要と考えています。おちばの里親水公園手前まで整備が進んでいますが、残り1キロがまだ歩道のない狭い車道を歩くということで、非常に危険な状態になっています。ぜひ今川沿いにおちばの里親水公園まで安全に歩ける遊歩道を整備していただきたいと提案したいと思います。

私たち湖西フロンティア倶楽部は静岡県を自然を守るという基本姿勢を持って活動しています。今後も精一杯活動していきたいと思っています。湖西の小さな団体ですけれども、大志を抱いてやっていることですので、頭の隅に記憶しておいていただきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

<県知事>

発言者1さん、発言者2さん、ありがとうございました。お2人とも先生なんですね。学校の先生といういわゆる教員免許を持った方ではありませんけれども、発言者1さんも発言者2さんも私はそれぞれスポーツ、あるいは自然環境、健康づくりの、特に青少年に目を向けた先生であるというふうに思っております。私、発言者1さんの御主人とは会ってまして、何しろ静岡県の浜松は言うまでもありませんけれども、ウズラは全部発言者1さんのところでつくられている。今日もお昼の弁当でいただきまして、御主人様によりしくお伝えくださいませ。

そういう健康づくりの御主人様の選ばれたパートナーは、誠に素晴らしいスポーツの推進員で、もともとソフトボールの名選手として今も現役で活躍されているということでございます。そして、そうした経験から新しいだれもが楽しめるようなスポーツを考案されているということで、これをどのようにして普及に我々が力になれるか、考えたいところでもありますね。

それからまたジュニアスポーツの指導もしていただいているわけですが、学校の放課後のスポーツというのはクラブ活動で部活でやるわけですが、これは学校の先生が顧問ということになるので、学校の先生は今御案内のようにとっても忙しいんですね。子供の数が少なくなっているにもかかわらず、いろいろな評価とか、雑務というふうに言うと大変失礼ながら、子供と向き合う時間がなかなかないということで苦労されておりまして、そうした中で夏休みを返上して部活もしなくちゃいかんということで、疲弊されているということはぜひ知っておいていただきたいと思います。

そうした中で、学校では基本的に教室で読み書きそろばんの基本を学ぶということなん

ですけれども、やはり心身ともバランスを持って育てなくちゃいけないので、そのためには私は発言者1さんのようなスポーツのエリートですね、こういう指導員の方々を急募しなくちゃいけないと、それは学校横断的でないとはいけないと思っているんですよ。

たまたまその学校にはソフトボールの指導ができる立派な先生がいます。だけどバレーボールはできない、あるいは水泳はできない、卓球はできないということになると、本当はそれがしたくてしょうがないけれども、できないというようなことがありますので、これはまだ雲をつかむような話のところがあるんですけれども、私は地域とともにつくる学校、理想的な学校はどういうものかということで、既に数カ月前からそういう委員会を立ち上げてまして、例えばスポーツについては、発言者1さんのような方々をリーダーとして、どのスポーツも子供たちがやれると。学校横断的にそのスポーツクラブに属せるというふうにして、学校の先生の部活の負担を軽減するだけでなく、地域の方々が実は義務教育、場合によっては高校も入れてもいいと存じますけれども、そこまで一緒に子供の教育については地域全体で責任を持ってやっていこうという、地域ぐるみ、社会総掛かりで教育をしていくということが大切だというふうに思っているわけです。

和太鼓なんかも、学校の先生で和太鼓の指導ができる人はそう多くないと思います。ですからそういう和太鼓なんかもしたい子がいるならば、そういう経験を積んでいる方々に御指導していただくには、やっぱり学校横断的にやらなくちゃいかんというふうに思っている次第です。これはまだどういふふうになるかは今模索中です。しかも県下全域で同じようにどこでもできるというわけにはいかないのです、モデル地区をつくりたいと思っております。

今ラグビーでワールドカップが2019年に来るのは御案内だと存じますけれども、この間ヤマハの元全日本の監督をされた大変な方ですけれども、選手もされたすごい方、ヤマハなんですね。何としても優勝してほしいと思っているんですけれども、そういう人が東京で1つそれを成功させているんですよ。彼の場合は磐田に本拠地がありますので、そこでひょっとすると最初のモデル地区ができるかなと思っているんですが、とにかくやろうとしていることは今申しましたような考え方です。それをどのように地域でつくっていくかというのはこれからの課題だということで、私は発言者1さんの活躍の場所は必ず出てくる。いや、必ず出てきていただきたいと思っておりますので、御主人にもその旨よろしくお伝えいただきたいと思っております。

それから発言者2さん、青少年教育と環境教育で一生懸命やっただいておりまして、

なかんずく青少年に自然を学んでもらおうということで、大分前から始められているこの活動で。

ですから不動谷ですから、北の方の。そこのところがもともと棚田であったと。ところがあるときからスギ・ヒノキを植えて、スギ・ヒノキが外材の輸入に負けて放っておかれていたのを棚田に戻そうというか、田んぼに変えようということで、お父上も発言者2さんも一緒になってなさってくれた。

やがてそこを棚田にするのに土作りから始めて、収穫して、「おいしかった」という話なんです。感動的な話です、これ。だからもう知事賞は言うまでもありません。ですから日本中が感動したということで内閣総理大臣賞だったんですよ。だからもうここでやっていることは日本のモデルなわけですね。そういうことができる地域性も持っているということなんです。

そうしたところに1キロ遊歩道が足りないじゃないか、今川の親水公園まで。一体県は何をしているんだと、あるいは市長さんは何をされたかということになっている話だと思いますね。ですからこれはこういう実績もあって、遊歩道を健康づくりにしていくということで、ちなみにもともと発言者1さんは早起きウォーキングということで市長に会われたら、6時半、そんなものは決して早いとは言えない。

というのは、市長は朝5時に犬の散歩を40分されているんです。紀州犬、過去5年間。しかも自分の犬じゃないんです。隣のおじいちゃん、おばあちゃんの犬なんです。しかもそれがもう非常に力が強いので、ひよっとすると転びかねないということで、御親切にもお隣のワンちゃんの散歩に付き合っているのが5時半ですから、これはもう1時間以上おこなっていますよ。しかも毎日ですから。

しかもそのときにいろいろ道を変えながら、ゴミを拾っていらっしゃる。なぜ湖西にゴミが落ちるのか。ゴミを落とす人がいるから。湖西の人でないに違いない。ゴミを落とさないということを何としてでも徹底して、そして気持ちよくワンちゃんと市長が散歩できるように、それを今は大体5時過ぎぐらいから明るくなって、だんだんとあれですけども、そういうことをされているということでもあります。

ウォーキングはだれでもできますが、デカスポテニスとか、サンサンバレーですとか、こういうのはやっぱりプロに聞かないといけません。これは発言者1さんでしかできないということですね。それからまた自然環境の学習などというのは、発言者2さんのように、そういうことについて通曉されている人でないとできません。ですからこのお二人に共通

していることは、こういう大人は、すべてとは言いませんけれども、背中を見てもらっても子供たちに恥ずかしくない。そして見せると。そして学校の先生方と同時に、自分たちも先に生まれた先生だと。

あとヨシ刈りについては、これは刈った後どうするかということも含めていろいろやり方があると思いますので、それぞれ地域でいろんなところでやっていますね。ちなみに朝7時からNHKのBSの3で「里山」というのをやっているのは御存じですか。7時から7時8分ぐらいまで「里山、季節の言葉」とかというので終わるんですよ。

そこでもヨシを、あるいはアシというんですかね、これを活用したいろんな取り組みが、例えば諏訪湖なんかで学生さんや若い人と一緒になされているということですから、邪魔だから刈るというだけじゃなくて、刈らなくちゃいけないんですが、今はもうそれで屋根を葺くということもなくなっておりますので、どういうふうにしてそれを活用するかということも勉強しながら、地域の環境再生を図るということじゃないかと思います。ですからこれも「はい、わかりました」ということなんですけど、どういうふうにしたらいいかという知恵を一緒に出し合おうというそういうこととして、課題として受けとめたいと存じます。お二人様、どうもありがとうございました。

< 発言者 3 >

入出で漁業をやっております発言者3です。よろしくお願いいたします。

漁業といっても、私がやっているのはアサリ採りと、冬場は許可を得てシラスウナギを、ウナギの稚魚をとっております。今日はアサリ採りの話をさせていただきます。

アサリ採りは年間を通して漁ができる漁業です。朝日の出から昼の12時まで操業時間が決められております。1日に1人66キロまで採っております。あと年間休漁日が定められていまして、土曜日と第2、第4火曜日が休みで、祭日の前日が休みになります、市場の関係でそういうふうになっています。そのようにして毎日アサリを採っております。

22年前に脱サラというか、自動車販売会社をやめて漁師になって、家業だったので親父の跡を継いで、現在漁師をやっております。

アサリは元手もそんなにかからないし、船とアサリを採る50cmぐらいのかごで、自分がやっているのは船の上から7mぐらいの柄をつけて、それを海に放り投げて、あとは体力が続く限りそれを引っ張ってアサリを採っております。そんな具合に、意外と網とかそういう漁だと、魚も逃げるのでなかなか採るのは大変なんですね。アサリはそんなに動くも

のじゃないものですから、ある程度頑張ればそこそこの量が採れるものですから、現在浜名漁協の採貝組合員は600人ぐらいですけど、市場に入れるのは40人ぐらいです。その600人で、主に専業でやっているのはそんなにいないものですから、3分の1ぐらいかな。

皆さんも御存じだと思いますけれども、去年はアサリが激減しまして、一昨年ここに直撃した台風のせいで、ちょうどアサリの抱卵時期にそれが重なって、卵がどこかへ飛ばされちゃって、その稚貝が生育しなかったものですから、去年は本当にどん底、僕22年やっているんですけども、最低の水揚げでした。

そういう自然との闘いと言えど闘いですけど、そういう意味もあって、採貝組合連合会という組織があるんですけども、そこでは資源保護のためにアサリ採取量、それを僕が始めたころには1日110キロまで採ってよかったんですけども、それがだんだん少なくなりまして88キロ、現在は66キロまで制限されております。

アサリを採ってきて選別するんですけども、それを通しというんですけど、その通しに格子状の目があるんですけど、それも小さいサイズを採らないように、目を少しずつ大きくして、今ではかなり大きくなっています。

あと連合会ではアサリの天敵で、アサリを食べるツメタガイという貝があるんですけども、その卵を組合員全員参加で年に5～6回ですけど、その卵を全員で駆除しております。

あと種貝が、北部の方で館山寺とか、そっちで小さい貝があると、そういう貝を採りまして、漁場はもっと南になるものですから、そちらの方に撒いたり、あと禁漁区を設けてあるものですから、その中にこの種貝を入れて育てています。

漁師は自然と共生しているというか、農業もそうですけれども、自然の影響が大変大きくて、知事に今日はお願いするというほどのあれはないんですけども、浜名湖は都田川の河口ですので、海を育てるのはやっぱり山だと思っただけなんです。ですので、これから公共事業とか、護岸工事とか、そういうのもできるだけ自然にならうとか、できるだけ自然に近い状態になるような形でお願いしたいと思います。

テレビでやっていたんですけども、海岸の砂浜が大分短くなっているとか、幅が狭くなっている、それもやっぱり川からの砂が来ないからだと思うんです。ダムがあるせいだと思うんですけども、そういう感じで、やっぱり川を大事にしていってほしいと思うんです。漁師で大したことは言えませんが、そんなところでございます。

< 発言者 4 >

こんにちは。花屋を営んでおります発言者 4 と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

私は J R 鷺津駅近くで花屋を営んでおります。鷺津の地で商売を始めて、約 60 年になります。創業となりますと大正 8 年になります。私で 4 代目になるのですが、その間、時代の流れとともに業態を変え、現在はフラワーギフトに力を入れた花屋となっております。

お店の運営を任されるようになったと同時に、地域との関わりを持ちたいと思うようになり、鷺津商店街協同組合の事業活動に参加させていただくようになりました。しかし、恥ずかしながら私は組合に携わるまでは、商店街加盟店の情報、すなわちお店の場所がどこにあるのか、どんなお店なのか、全く知らないことに気がつきました。もっと商店街のことが知りたい、アピールしたい、そういう思いから鷺津商店街のフラッグのデザインを考えさせていただいたり、現在は鷺津商店街のマップ製作のチームリーダーとして活動させていただいております。

マップ製作を進めていく中で、10 年前と比べて加盟店が半減しているという現実とぶつかりました。個店が存続するための環境が厳しいものであると感じます。店主の高齢化や後継者不足などが挙げられると思いますが、各個店の努力不足と一言で片付けられるようなものではないと思います。今必要なことは各個店の連携、すなわち商店街の再形成が求められていると感じております。今こそ若い力で商店街を盛り上げていけたらと考えております。

現在進行形のマップ製作のターゲットは、子育て世代の若いお母さんに焦点を絞っています。若い世代の方たちにもっと鷺津商店街のよさを知ってもらいたい、まちを回遊してもらいたいという思いで、「お散歩マップ」の製作を進めております。J R 鷺津駅から周辺の情報を消費者の目線に立って、商店街に興味を抱いてもらえるような魅力的なマップにしたいと思っています。そのマップが完成した暁には、このマップを手買いする人があふれ、まちに活気が生まれればよいなと思っています。

11 月の下旬に鷺津商店街のイベントとして、「きらきらフェスタ」という行事を開催いたします。J R 鷺津駅前をイルミネーションで明かりを灯すというイベントなのですが、毎年継続して開催できますよう、皆様ぜひ御参加お願ひ申し上げます。

「きらきらフェスタ」と連動して、今回このマップを利用したのスタンプラリーやレシートラリーなどの企画も御用意しております。マップを手買い鷺津商店街に足を伸ばしてい

ただけたらと思います。

フラッグの製作やマップの製作のほかに、街路灯のLED化、防犯カメラの設置を鷺津商店街と湖西市商工会、自治会の三者で取り組むまちづくり事業も現在進行中です。鷺津駅前の安全・安心を目指し、多くの人が集い、もう一度まちに賑わいが訪れるよう、これからも邁進していく所存でもあります。

にぎわい事業、まちづくり事業を行う中で、新組合員の拡大も目指していきたいと思っております。まちは整備され、美しい浜名湖がすぐそばにある魅力的な場所・人・物があふれる地元鷺津をこれからもより多くの人にアピールできるよう活動を続けていきたいと思っております。これらの活動は行政のお力添えのおかげです。これからも御指導、御支援をよろしくお願いいたします。

私事になりますが、鷺津商店街協同組合の活動とは別に、花を扱う人間として、浜名湖花博や、沼津で開催されました大きなフラワーデザインの競技大会アジアカップにも携わらせていただきました。川勝知事が謳っている「花の都」をアピールすべく、花屋として花の魅力も伝えていきたいと思っております。御清聴ありがとうございました。

< 県知事 >

どうも発言者3さん発言者4さん、ありがとうございました。お2人は生き物に関わることでありますが、アサリ、昔は110キロが制限だったのが88キロになって、66キロになると。

アサリは、だんだん採れなくなっているということで、しかしまず発言者3さんが20年余り前にお父上の家業を引き継ぐという。お父上は御健在ですか。（「いいえ」）そうですか。安心して天国に召されたのではないかと思います。やはり親孝行の息子さんがいるということが、こういう貝を採取して、そして多くの方々においしいアサリを供給していくということが続いているんだということで、まずは本当に親孝行でいらしたと思えますね。

しかも、アサリ漁業はそんなに難しくないぞということで、中学生、高校生、小学生に聞かせたいということですね。そんなに難しいことじゃない。ただし自然が相手なので、昨年のように台風で壊滅的に近い打撃を受けることもあると、そういう仕事で、やはり厳しいということ。同時にこれは日本全体のニュースになって、特に静岡県下ではアサリ、またはウナギの問題が大変高くアピールされまして、多くの方々の関心が集まったのでは

ないかと思えます。

そうした中、浜名湖の漁協の皆様方、それぞれ小さなウナギは海に返すと、そしてまたアサリも小さなものはこれは採らないというふうなことをおっしゃっていましたが、決して自然に対して乱暴を加えない、自然の恵みをありがたくいただくというその姿勢を去年はこうした危機の中でお示しになったのではないかというふうに思うんですね。

ちなみに浜名湖は汽水域、すなわち海水と淡水が混ざり合う日本でも有数の、あるいはトップのと言うべきですけれども、汽水域で、そこに生息している数は、公式だけでも300幾つ、700ぐらいと言われて、790種類、ちょっとこれは言い過ぎじゃないかと思うんですけれども、とにかくこの近くに、近くというよりも反対側ですけれども、そこで皇太子様と秋篠宮様が現在の天皇皇后両陛下と御静養を夏のときにされたということで、あるとき秋篠宮様が「浜名湖のあれはありますか」と言われたんですよ。それがわからない、こちらで聞いているのがだれも。それで調べて、全部食べられるもののリストを差し上げたんですけれども、「あっこれです」と言われました。とにかくここでの思い出が日本の国民の象徴ともいうべき皇室に愛されているということです。

ちなみに、お手元にあるかどうか知りませんが、『遠江八景』というのをお持ちの方はいらっしゃるでしょうか。欲しい方はどうぞ、後で見てください。これは静岡文化芸術大学浜松にございます先生とか、和食を世界無形文化遺産に登録される取りまとめをされた方ですが、その方々にやっていただいたんですが、ここに皇后陛下の歌が入っています。「われら若く子らの幼く浜名湖の水辺に蛍追ひし思ほゆ」、これは自分たちはまだ若かったと、子供たちもまだ小さかったころ、浜名湖の浜辺で遊んだと。そしてそのときにホテルが飛んでいた、その姿を今でも思い出すという、すばらしい歌をここに贈ってくださっているんですよ。だからここは本当に美しいところなんですね。

そうしたところの美しさは実は水辺の景観で、その水の美しさは、実は川を大切にすることだというふうに発言者3さんおっしゃっていただいて、そのとおりだと。三面コンクリートでつくってはいけない。しかも都田川というのは名前もいいですね。ですからこの川については、これまではダムをつくるということで、とにかくコンクリートの壁をつくってやってきましたけれども、生物と一緒に共生するためにどうしたらいいかという知恵を、自然を潰すのも人間ですけれども、自然を回復させる力を持っているのも、先ほどの発言者3さんのお話じゃありませんけれども、人間の力ですので、やはりこういう実際にこの湖で仕事をされている方々の経験的なお話を承りながら、行政の方も川を美しく

保つということをしていかななくちゃならない。それが結果的にアサリが不漁にならないで、我々の食卓に届くということになると。

大事なことは食べるということです。足りないぐらい食べると単価が上がりますから、ですから静岡県の皆様方はお茶を日本の平均の2倍飲むでしょう。アサリも日本の平均の2倍食べていただく。そうすると健康になるという、あわせてそういう統計の数字を出すことが必要なんです。ちなみにお茶についてはわかっておりまして、お達者度とか、いわゆる健康寿命、あるいは高血圧とか、あるいはメタボとか、そうしたものが悪い数字が伊豆半島なんです。西部・中部の方は高いんです。それはお茶を飲んでいる量に関わっていると。

ですからお茶は健康にいいということがわかっているんですけども、そうしたようなことと言えば、今日はアサリだけの話でしたけれども、実際は魚介類が我々は3桁、100種類以上採れます、静岡県下だけで。それから農産物は339採れるんですよ。お花は入っていません、そこに。339というのは覚えやすいですよ、三三が九ですから。これ日本一なんです。あとは2番がたしか150数種です。そしてお魚を入れても2番目が218種類ですから、圧倒的に食材が多いんですね。タンパク質も、それからビタミンも、さまざまなものが静岡県ではバランスよく食べられるということで、食の都づくりということの一角を発言者3さんのような方が担っていらっしゃる。

ですから、こちらは漁協でしょう。だけど農協もあるはずですね。農協と漁協では組合とシステムが違って法律も違うんですが、しかし消費者の側からすれば関係ないでしょう。だから漁協と農協が市場を一緒にして売ると。漁協の方たちは海のを、あるいは湖のを売ると。だけど彼らは家に帰ると野菜も買うじゃないですか。だからそこで売ってくればいい。そして農協の方たちは果物だとか、そういう野菜とかを売られると。だけどやっぱりタンパク質のお魚もおいしいでしょう。彼らも買えるし、消費者の方たちは買える。だから漁協の農協の区別を徐々に減らして行って、一緒にやっていく必要があるというふうに思っているんですよ。

そしてまずは川をきれいにするには、森の体験をしなくちゃいけないと。そういう森、それから川、それからこういう汽水域を経て海ですね。この沿岸漁業が非常に豊かです、静岡県は。それは実は森が豊かだからと。それをつないでくるのが川なので、こういう連関を学校の教室だけでは学べないので、実際に漁協あるいは農協、農業や漁業をやっている方々、我々は漁業経営士とか、あるいは農業経営士とか、林業については林の家と書き

まして林家、こういう人たちは大学で言えばプロフェッサーです。そういう方たち、発言者3さんなんかはとつとつと話すじゃないですか。だから話し方は学校の先生に比べるとゆっくりだからわかりやすいですよ。

だけど決して得意だと自分で思っているじゃない。だけど一旦浜名湖の湖水に出れば、彼の右に出る人はいないわけですよ。水が恐くて泳げないとか、そんな人がいるかもしれませんが、ですからそれぞれのプロの道のところで、現場で子供たちに学ばせる、あるいはそういう機会を学校の先生方ができるように湖西から始めていただきたいなど。もちろん授業料を払わなくちゃいけませんから、それが副収入になるということですよ。だからそういうボランティアという精神も必要ですけれども、ちゃんと対価をお支払いして、子供たちの教育のためにはそういう先生方を生かしていこうということだと思います。

それから発言者4さんは、この間の浜名湖花博の成功の一因は発言者4さんの頭のトレードマーク、これが有名で、この三角帽子というんでしょうか、トレードマークが出たら、4代目のお嬢さんがここにいらっしゃるというわけで、それでボランティアの方がたくさん来ていただいたおかげで、もともと80万人の目標が130万人になったんですね。80万人という目標は、これは決して、当初は60万人だったんですよ。

なぜかというとなぜか540万人来たでしょう、10年前。そして我々が浜名湖花博のモデルにしたのは淡路島の花博だったわけです。あれが800万人を目標にして、800万人近く来られたわけです。向こうは神戸とか大阪とか大都會がありますから、こちら浜名湖ですと浜松市が中心ということで500万を目標にして540万人来られたわけですね。そして10年たちまして、向こうが800万人の1割、80万人を目標にしようと言われたわけです。うちは540万人来られたので54万人、それを繰り上げて60万人を目標にするとしたら、50万人にしておいた方がいいじゃないですかと言う人もいたんですけども、それじゃだめだと、日本一にしないかんということで、じゃ60万人、いや違う80万人だと言ったわけですよ。

そんなことを言うと、しかしね、知っているんです。今日は発言者4さんがフラワーポットをつくってくださいました、ここに置いてありますけれども、お花の種類を勘定したわけです。704あるんですよ、品目数で。このガーベラなどは橙色だとかピンクとかいろんな形、いろんな色のものがありますでしょう。そういう品種だけで、ガーベラという1品目に、この浜松だけで200品種ぐらいつくっていますよ。毎年出てくるんですけども、静岡県全体で300品種くらいあります。トルコキキョウだ、バラだ、菊だ、等々、そうい

う1品目につきいろんな品種改良をされておりますので、品目数 704 というのは大変な数なんです。

ただ全国のお花の数を全部網羅的に私見ていませんが、日本海側とか北海道の方は冬は雪でしょう。ですからもともと花の数が多く栽培できません。しかし本県はそれが可能で、特に西部の地域は南アルプスからずっと、南アルプスはエコパーク。エコパークというのは正確には Biosphere Reserve と言いまして、バイオというのは生物、スフィアというのは圏域という意味です。生物圏の中でいろいろと保護しなくちゃいけないという、それはなぜかというすとばらしい多様性があるからです。それがこの間エコパークになったじゃないですか。そういうものを控えておりますので、もともとたくさんできる場所なんですよ。世界的に見てすごいんです。

ですからこれを大事にするにはどうしたらいいかというと、このように使うことなんです。鷺津の商店街だけではありません。ここに例えば皆様方のお部屋だとか、あるいは事務室だとか、そこにどんなコップでもいい。そこに1輪の花を挿すだけでも感じが変わります。

市長さんなんかは、あるいは県議会議員の先生なんかは、県知事室に来られるわけです。私の知事室には、前はプラモデルしか置いてなかったんですよ、飛行機の。今はお花でいっぱいです。それはお花を生けるようにしたからなんです。今くださるので、どんどん、どんどんと。

それから静岡県庁に来られたときには、本館と西館と東館と別館がありまして、お越しになるときは、正面玄関から堂々と入ってください。大階段がありまして、大体その正面玄関のある本館というのは文化財です。国指定の文化財なんです。ところが階段と壁の染みしかなかったんです。そこにまずは余っている写真を、とりあえず富士山の写真をということで富士山の写真を飾った。そうすると腰壁をもう少しつくった方がいい。県産材で腰板を入れまして、そうしたら今度はきれいなお花をそこに置きたいということで、静岡農業高等学校ですか、その生徒たちがお花を持って来るようになったりして、お花で飾られるようになったんです。

それは何のためにやっているかというと、飾ることも大切なんですけれども、使うことを通して、それを本当に心を込めて栽培している人たちに対する感謝の念ですね。もちろん野の花を愛でるといことはとても大事ですけれども、同時にお花屋さんで1輪の花を買う。そして病院に見舞いに行くときでも、ひよっとすると物が食べられないんじゃない

か。だからお花を1輪、お花1束を差し上げるだけでも気持ちが伝わりますでしょう。

ですから日常生活の中でせっかく四季折々の花をたくさんつくれる地域に生きているので、お花を使いましょう。そのお花がたくさんあるので、そのお花の魅力で130万人というすごい数が来られたんですね。そしてパーンと西にフラワーのアジアカップというのをやると、プラザヴェルデで。これは千本松フォーラムというのででき上がりましたので。

公共の建物だから、あそこだと千本松原というイメージがありますから、千本松をイメージしてつくろうということで、そしたら見事なものことができました。県も市も一体になってやったわけです。そこで最初に、それを寿ぐためにやったオープニングイベントがそのアジアカップで、そこに発言者4さんが来てくれたんです。ありがとうございました。

だからもう湖西の西の端はもうちゃんと東まで、あそこで花をやる、発言者4さん知らないでだれが花を語れるかと、こういうふうになっておりますから、ですから大切なことは、やはりお花を使うことを通して花のまち、花の都、そして水辺とお花は似合うんですね。

それだけでも額縁として最高なわけですから、だからそこに人の気持ちが、お越しになった方たちにわかるように、実際ははっきり言うと湖西ではありますけれども、浜松市の大きな駅と静岡市の大きな駅、これは新幹線が両方ともありますけれども、内陸側といいますが、北口側をごらんくださいませ。こちらはフラワーポットや花がありますが、静岡というのは水の森ビルというのがあるんですけれども、ビルだけで水も緑もないですよ。ですからこちらの方はそういうイベントをすることを通して、それをどういうふうにしてまちの中に生かしていくかということで、市民のレベルが高いんです。

ですから、浜名湖の西側と、そして中央から東側、これ全域を環浜名湖として、これは東海道のオアシスですから、オアシスは水辺のある空間なので、そこには色とりどりのお花が四季折々の美しさを市民の手で、そしてどこに行ってもちょっとしたそういう心遣いが現れていると。そのためのプロがいるんですね。そのプロがこういう発言者4さんのような方です。

私はこういう人たちがもっと増えればいいというふうに思っております、花の都づくりをするには、我々気持ち1つでできますから。花の都というのは、「花の都パリ」とか、「花のお江戸」とか言いましたが、これは華やかな中心性のあるということなんです。本当の花じゃないんですよ。こちらは本当に花のあふれるそういう地域景観をつくっていかう。これは必ず人の心を打ちますから、言葉が要らないんですね。

そういう意味でお花を大事にするきっかけで大成功しましたので、これからまた秋の花が咲きます。こうしたときに皆様方が御協力いただいて、市長室に1回入ってみたいと思うんですが、花がちゃんと生けられているかどうか。どうですか。市長さん、ちゃんと市長室に花が置いてある？（「置いてあります」）私のところはいつ来ても置いてありますよ。

だからどこかが始めるとスーッと、特に女性の職員たちが自分たちの活躍の場が得られたということで、一気に開放されて、来られる方も楽しいですから。ですからもうぜひ湖西から、今日発言者4さんが来ておられるので、これをきっかけにボランティアの方たちに本当にお世話になって成功しましたので、これをまちづくりに生かしていただきたいと切に祈念する次第であります。

<発言者5>

皆さん、こんにちは。私は発言者5と申します。よろしくお願いいたします。また本日は貴重なお時間をいただきありがとうございます。

私は化学や物理などに関する分析を行っています会社を5年前に起業しております。本日は業務の立場、起業家の立場、あるいは市民の立場から少しお話しさせていただければと思っております。

まず業務の立場からですけれども、私どもは異物分析だとか、材質分析など、工業系の業務が中心です。その分析の最も基本となるところは、まずは見ること、それは肉眼での観察、あるいは拡大観察になります。拡大観察というのは、御存じのようにマイクロスコープだとか、電子顕微鏡といったものを用いて実施しています。

そこでまたちょっと話は変わるんですけれども、近年、日本の子供の理科離れ、理数系の学力低下が言われています。私はその理科の基本はまずは観察することにあると思っています。同じように、ものづくりにおける基本は観察することにあると思っています。それはつくる前の研究開発過程のものであったり、あるいはでき上がった製品であったりします。

私はこの見るということに対して、小学生や中学生、あるいは高校生に少しでも理科に興味を持ってもらえるようにしたいという思いがあります。子供たちが少しでも理科に興味を持つことによって、将来ものづくりに携わる人が増えることが、これからのものづくり日本を支えていくことができるのではないかとこのように思っているからです。

そこで私が少しでも役に立つことができたらと考えているのが、実現できるかどうか

からないですけれども、小学生や中学生、あるいは高校生に電子顕微鏡をのぞいてもらえるような場を提供したいというように思っております。子供たちがそれぞれ興味を持ったものを電子顕微鏡観察することによって、少しでも観察するというところに興味を抱いてもらえたら、将来のものづくりをしてみようと思う人たちが少しでも増えるのではないかと考えています。

次に起業家としての立場からですが、私は5年前に起業しているのですが、最近行政による施策が厚くなってきたとはいえ、まだまだ若者が起業しにくい状況にあると思います。中でもインキュベートルームが各地に必要であるというように思っておりまして、私も起業当初2年ほどは浜松市にあるインキュベートルームを利用させていただきました。

湖西市内は大手の企業内で技術や知識を磨いていて、自分で起業したいと考えている人も少なくないと思っています。しかし起業しようと考えても、潤沢な自己資金がある人以外は、浜松市あるいは豊橋市に出ることになってしまいます。県内のほかの都市においても、静岡市、あるいは沼津市に出るしかないというように思っています。

これでは地方で起業家が育つ道は細いと思います。限られた資金の中では、一旦市外で起業して、軌道に乗ってから湖西市に戻ってくるというふうになってしまいます。起業を目指すものにとってはハードルが高いため、より起業しやすくなるような環境を県内各地に設置していただくことを望んでいます。起業する人が増えることによって、そこに雇用創出の場も生まれてくると思っています。

またちょっと話は変わってしまいますが、御存じのように、製造部門の海外転換が盛んに行われています。この流れは今後も続くものと思いますが、これからの日本の企業は新製品だとか新商品の試作開発が中心になっていくだろうということは容易に予想できます。また、日本の人口の自然減が話題になっていますが、静岡県では自然減に加えて、他の都道府県への人口流出も多いと先日報道されていました。

静岡県での工場の誘致もなかなか進まないということも聞きます。ターゲットを絞った、将来を見据えた誘致が必要だと思っています。県西部は輸送機器産業が盛んな地域です。例えばですけれども、県西部では輸送機器産業関連の研究開発企業や、その企業の開発部門、あるいは輸送機器産業関連で起業を目指している人たちにターゲットを絞って、研究開発型の地域を目指すのも1つの手ではないかと思っています。

最後に、市民の立場から漠然とした希望ですが、湖西市は大きな企業も多く、昼間の人口は夜間の人口よりも1割以上多いまちと聞いております。湖西市で働いている人の多く

は浜松や豊橋から通勤しています。通勤途中の人たちが市内に立ち寄って消費してくれるようなまちづくり、あるいは労働者が移住してくるような魅力あるまちづくりが必要であると思います。将来の湖西市の全体像を市民で考え形成していくことが、これからは必要じゃないかと考えます。以上、ありがとうございました。

< 発言者 6 >

皆様、こんにちは。私は民生委員児童委員をやっております。今日は湖西市民生委員児童委員はこのような活動をしていますといったことを、私事を踏まえてお話ししたいと思います。

湖西市民生委員児童委員協議会では 103 人の委員がいます。地域福祉、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉の 4 つの部会がありまして、103 人の委員がその中の 1 つに属し、活動のための自己研鑽をしています。

それぞれの担当地区で活動していく上で、私たちの心のよりどころとなる民生委員児童委員信条・児童憲章前文を常に念頭に置いております。だれもが住み慣れた地域で安全に安心して過ごせるようにと見守り活動をしています。

私は委員を委嘱されましたのは平成 10 年でした。まず担当地区を知るために歩きました。住まわれている人々の話、情報を大切にしました。一人暮らしの高齢者の方の安否確認には、緊張して出かけたことを今でも思い出します。

1 度 2 度と訪問させていただく間に、自然と高齢者の方との信頼関係が育っていったと思います。心配事のお話をしてくださるようになりました。今は相談の内容は多種多様です。きめ細かな対応ができるようにと思っています。

現在、湖西市内には 33 の会場で社会福祉協議会の働きかけで、地区福祉会が主体となり、自治会と連携し、「ふれあい地域サロン」が開かれています。地域のボランティア、スタッフの方々と御一緒に参加しています。集まってこられる高齢者の方々の本当に生き生きとしたお顔を拝見することがとても楽しみです。家にこもりがちになる方たちが地域の方とコミュニケーションをとられる場として、大切な活動となっています。

今は「ふれあい地域サロン」のほかに、居場所づくりとして「おしゃべりサロン」を開いている地区もあります。そこでも委員さんが協力していると聞いています。

児童の見守り活動では、登下校時の声かけ、下校時のパトロール、地域の見守り、声かけ・挨拶運動の参加をしています。今朝も声かけ・挨拶運動がありまして、参加してまい

りました。

青少年健全育成活動を展開しています部会の中では、コミュニティ福祉部に属し、家庭の日の推進をしています。明るい家庭は健全育成には大切だと思っています。今年の夏休みも委員会からの御連絡で、地域の子供会のラジオ体操に参加しました。幼児さんは御両親と一緒に参加している御家庭もあり、ふれあう行事となりました。地域の実情を知るには、地域でのふれあいが大切だと思っています。

市内には浜名学園、県立浜名特別支援学校があります。夏休み、運動会、夏祭り、それから授業参観等のいろんな行事がありますので、御案内をいただきます。その折には障害児者部会の委員会が中心となり参加し、ふれあいを通して理解を深めています。

今課題としていますのは災害時・緊急時の対応です。南に太平洋、北にはがけ崩れ注意の地域があります。とても心配しています。地域の人と人のつながりが希薄にならないよう、向かい3軒両隣を大切にしていきたいと思っています。

そして民生委員児童委員のことですが、3年に1度の改選時、スムーズに後任を決められるようにと思っています。

自然災害時の自助の行動ですが、1人で自分の命を守れないような高齢者もいます。その方たちのことをとても心配しています。そして夜、突然の発病で消防署の方から御連絡をいただくときもあります。そのときは本当に皆さん自分のことのように病院へ走るそうです。地域の中で福祉への関心を持ってくださる方が1人でも多く育ってほしいなと願っています。

先のことですが、9月28日に社会福祉大会、そして笑顔をテーマにした「32回ふれあい広場」が開かれます。1人でも多くの方に参加していただき、福祉を考え理解していただける1日になるといいなと思っています。

私たち民生委員児童委員にとって大切な住民の相談支援では、住民の方に寄り添い、相談に来られる方の立場に立ち、平常心で中庸で相談者のお話を傾聴し、行政・社会福祉協議会・地域包括支援センター等の機関へのおつなぎをし、住民の福祉サービス事業に協力する活動をしていきたいと思っています。御清聴ありがとうございます。

<県知事>

どうもありがとうございました。発言者5さんと発言者6さん。

まずは発言者5さんですけれども、彼のような分析の専門家から聞く話は、やはり味が

あると。理科の基本は観察することだと、よく見ることだと、見ればある程度のことがわかるという、この観察する力を子供たちに何とか伝えたいということでしょうね。英語で「わかる」というのを「I see」と。見るという see、「あつわかった」というときに「I see」というふうに言ったりしますけれども、見るということとわかるということがやはり同じだということだと思います。

しかし、今は食品でもさまざまにいろんなものが混じって、昔はゴミということがわかったんですけども、今は化学的に分析が難しいものも混入されたりしておりますので、どうしても発言者 5 さんのような専門家が必要なんですが、電子顕微鏡という非常に日本の、いわば技術の成果の 1 つでもありますけれども、それを中学生に見せたいと。

私は中学生と言われたのがいいと思うんですよ。大体中学 2 年生くらいになりますと、思春期ですね。そしてそのときに工場あるいは会社に連れていく。そうすると翌日からお父さんやお母さんなり、家の中で働かされている方に対する目が変わるそうです。自分のお父さんが働いているところでなくても、家の中で疲れてテレビを見て、ごろんとしていると。実際はてきぱきと仕事されていると。これが社会なんだということで、ものすごく教育効果があると、見学だけで。見てもらうという見学でしょう。

それを電子顕微鏡という実際に分析、医療であるとか食品などの御依頼もたくさん来ていると思いますけれども、そうしたものを見せたいとおっしゃっておりますので、たくさんでなくても、そうした教育の機会というのがそれぞれの会社、それぞれの企業、それぞれの工場が持っているんだということの事例ではないかと、こういうふうに思いました。

さて、湖西というのは先ほど漁業とか農業というものもございますし、何ととっても工業のまちでもあるということで、一次産業から二次産業もバランスよく存在しているところであるということではありますが、起業したい、会社を興したい、事業を興す、起業したいと、お金がないというわけでしょう。実はしかしお金は日本全体であり余っているんですね。

今、日銀の総裁が 100 兆円余り余計につくって 200 兆円余り、要するに日銀券を刷っているだけですから、幾らでも刷れるんですよ。それで、だれがその日銀券をもらっているかという銀行さんなんです。銀行は国債というものを買っているわけですが、安全だからね。それがこっちに回ってこないんです。けしからんと。銀行栄えて産業減ぶということになる。社会のために生かされてないと。起業するというか、起業家になるには才能が必要なんです。そういう才能は全員に恵まれているわけじゃなくて、勇気のある人。

5年前にこれを始めたと言われたでしょう。なかなか勇気のあることです、新しいことをやるわけですから。そういう顔をされています。四十不惑でしょう。前厄、本厄、後厄ですか、それを吹っ切って、迷わないで起業したという感じですね、私に言わせると。

そういう人で、何と言ったってエネルギー源が要るわけです。それがお金です。そのお金はだれが持っているかという銀行家が持っている。どうして貸さないんだと言ったら、やっぱり担保を取れるかどうかと言う。それじゃあなた方一緒に出てくださいと。金融、銀行の方、信用会社と、それといわゆる実業をされている方、行政、それから学者、一緒になって経済成長戦略会議というのを何カ月前でしたか、この3月に立ち上げたんですよ。

それでも既にでき上がっているんですけれども、金融家を入れて、どこにお金を出すべきだと。少々失敗しても、嫌ほど持っているんですから、それは大したことでないと。実はお金のあるところは2つあるんです。1つは銀行でしょう。もう1つは60歳以上の御家庭。平均ですよ、平均。だれもがあるわけじゃない。だけど30歳の方と60歳の方で、どちらが預金が多いかという、これから結婚するか、あるいは結婚したばかりで子供が産まれたというそういう御家庭と、子も育て、もうそろそろ引退だと、どちらがお金があるかという、もちろん引退する人たちですよ。

これも社会に還元するべきだと思っております、これを教育に、いろいろと相続税などに関しまして、教育のために使えるようになっておりますが、お金は天下の回りものです。だからこれを回さないといけないということで有効に使うということで、私は銀行の役割は極めて大きいと。

ですからみんなここを励まさないといけないと言ったところは、とりあえずやってみようと。失敗して元々だということで、起業するということは決して易しいことではありませんので、そういうシステムは恐らく静岡県の中でも浜松は強いと思いますよ。浜松市長とも、もちろん湖西市長さんとも、とても懇意にしておりますので、連携してお金が回るようにしていきたいというふうに思っております。

こちらは輸送機器が得意だから、そのところで新しい輸送機器の研究をしたらどうかということなんですね。特にこれからだんだん水素自動車とか、もちろんハイブリットから電気自動車、変わっていくと思いますが、同時にオスプレイなんていうのが来てますでしょう。垂直に飛ぶわけですね。ヘリコプター機能と飛行機能を両方持っている。だけど、なかなかやかましいし、そして危険だと言われております。

日本人のだれも運転してないでしょう。日本人のだれも操縦してないんですから、どう

して自分のところの部下に操縦させないんですか。

私のところに今4人の元自衛隊が来ております。そのうちの一人は、3,000回ヘリコプターの操縦をしたことのある人です。「君、オスプレイに乗る覚悟があるか」と言ったら、「あります」と言う、二つ返事で。「君の家族は事故に遭う場合があるから大丈夫?」「大丈夫です」と、二つ返事です。それで、うちには自衛隊の出身の方で、オスプレイの操縦の訓練を受ける用意があると、引き受けてくれと。それが1年前ですよ、もう。アメリカと一緒にやっているとか言いながら、V-22が何十機も日本にあるんです。それを操縦できる日本人が1人もいないんですよ。操縦させるようなこともさせてない。

それで1回操縦してみるでしょう。どこがメリットか、どこがデメリットか、今度それがわかるとここを改善したらいいと。今この回るヘリコプターみたいなやつが2つしか付いていませんけれども、これが3つ付いた方がいいとか、4つ付いた方がいいとか、差し当たって無人でこれをやってみよう。こう上がってこう行けるといって、滑走路が少なく済みますからね。そういうことも、これは輸送機器の1つの応用ですよ。

あるいは今、自動車はかなりの人が持つようになったので、いきなり大きく市場が拡大することはない。ところが我々は今動かないで椅子に座られていますけれども、動く椅子、すなわち車椅子ですね。車椅子でも20キロぐらいするでしょう。重たい。15キロから20キロぐらいです。私のようなものが動かすのは大変。そうするとそれを乗せるのが大変ですよ。

そのときに今は5キロ、5キロというと普通のカバンのようなものです。それをつくったのが浜松です。4つの企業が一緒になってつくりました。ちょっと値段が高いんですが、ですから軽い。そして自分で操縦できる。そういう新しいものができつつありますから、今の輸送機器の改良、エネルギーを少なくするという改良だけでなくいろんな方法があるだろうと。

特に福祉についてはロボットでいろいろとできるということもございます。そんなことで福祉機器、医療機器というようにところに匠の技術を持っていらっしゃる方が進出できるようにやっつけよう。ちなみに医療機器というのは6,000億円の赤字なんですよ。要するにアメリカから買っている。ところが日本の技術で医療機器つくっても許可が下りないんです、厚生労働省から。それをアメリカが許可するんです。向こうで許可されたものがこちらに入ってくると、1億円も出してダヴィンチとかというすごい機械を買わされたりしているわけです。

そうしたものも自分たちでつくれば国産になるし、そして大体アメリカの方というのは足が長いでしょう。ですから体の形が違うので、日本人の体に合った機械ができると、これは日本人と似たような体を持っているアジアの人たちにも売れますから、ですから新しいどういう機械が人間の幸せを高めるかということを考えながら、お金は決してないわけじゃない。あるところに偏った形で存在しているので、それを引き出してくるというそういうことが起業家に必要なので、だから今とても大事なことを発言者5さんは言われたと思います。

それから人口減に加えて、社会減があるということですね。こちらでもこれは発言者6さんの方からも防災のことを言われましたけれども、これは何しろ市長さんと御一緒に、ともかく津波が来たら大変だということで、あそこの海浜公園でしっただけ、海釣り公園、あそこのところに東北みたいに十数メートルのあれを建てるのかと、そういうことはしない。どうするんですか。命山をつくる。だから予想されている津波より高いものをつくれればいいわけです。といたって15メートルから20メートルのものをつくれれば十分ですよ。

それはそうでもしないと、コンクリート壁をつくってごらん下さい。せっかくの美しい景観が台無しです。どうしたらいいか。まず地元の人がどういうものが欲しいかを聞くということですね。そして県と一緒に協力して、これならやるということをやります。それを今、市長さんやっておられますから。

それで、1つは南海トラフの巨大地震が起こった場合には、今防災期間でしょう。ものすごいあれが来るということです。これはレベル2とありますが、マグニチュード9です。5分ほどで第1波が来るということです。第1波が必ずしも高いとは限りませんが、ともかく逃げないといけません。逃げる以外に方法がありません。逃げる場所をつくらないといけないということなわけです。

ところが皆さん気づかれましたか。去年の12月に首都におきましては、マグニチュード7クラスのものに向こう30年の間に70%の確率で起こると言われたんですよ。マグニチュード7、こちらはマグニチュード9なんです。それで首都というと関東大震災が9月1日、大正12年に起こりました。それをきっかけにして我々は9月1日前後に総合防災訓練をやっているわけです。関東大震災のマグニチュード幾つですか。8ですよ。

ところが今首都圏の内閣が言っているのはマグニチュード7クラスと言っているんです。江戸時代に何回か起こっているんですよ。皆8以上ですよ、8.3とか、8.35とか。うちは1,000年から1,500年に1回起こるマグニチュード9クラスのやつに対して備えろと言われて

ているわけです。

そのパニックで一番減っているのは沼津です。焼津は逃げるところがないでしょう。どこへ行くのか。藤枝じゃないですか。焼津と藤枝というのは、藤枝東でサッカーやりたい人がたくさんいますから、ですからもう行き来はあれですから、藤枝は静岡県で一番たくさん人口が増えているところです。

だけど、ともかく人口減は日本全体のあれですけれども、社会減。社会減で一番社会増が起こっているのはどこかというところ、これは東京都と埼玉県、神奈川県です。東京都は人口減はこうなんです。ところが社会増で増えているわけです。なぜ人口減しているか。いわゆる女の方が15歳から49歳まで何人子供を一生の間に産むかという合計特殊出生率というのがあるんですが、東京が日本で一番低いんですよ。ほとんどこの間まで1だったんです。今1.13、静岡県は1.53です。ところが高いところは1.8だったかな、長泉と裾野。もう2.0までいくと人口は減りません。

言われた以上やるということで、今やってますので、そうすると今までマグニチュード8から8.4ぐらいの東海地震、これについて2兆円余り投じてきましたから防災先進県なんですよ。つまり東京ぐらいのやつについては全部できている。ところがマグニチュード9レベルについても、向こう10年以内に8割犠牲者を減らすとやって今やっています。そうするとこれほど安全なところはなくなりますから、必ず増えます。大丈夫ですよ、今は一番厳しいときですから。

それで花の都だ、食の都だと、そういうことをやっていけばいいので、ここはもう浜松、こちらが薬師寺の薬師如来みたいなものです。月光菩薩と日光菩薩でそれぞれ浜松と豊橋に控えて、湖西連峰から見ているという感じによろしいんじゃないですか。そういう気持ちで、やがて一緒になればいいと思いますけれども、ともかく自信を持ってこの難局を乗り切れば、市長がなканずくこの件については非常に御関心を持ってなさっておられますので、私も一緒にその現場を見ました。この辺に建てていこうというふうに今言っております。それは恐らく皆様方も納得づくでされているに違いないと、こういうことですよ。

来られた方がいろんな買い物ができるようにしたいと、それは本当にそのとおりですね。やっぱり来てよかったと、リピーターをつくるための可能性が発言者4さんだとか、アサリの発言者3さんなんかやってくさっているんで、それから何と言ってもウズラの卵、ともかく食・花・水・景観で来て楽しい、また来たい、ここに住みたいというふうに、そういうリピーターをつくるためには、自分たち自身が一番快適であることがいいと。その

ためには困っていく、つまり高齢になっていくというそういう人たちを、特に困っている人たちを助ける民生委員というのは不可欠なんですね。

そして発言者6さんは平成10年からずっと3年ごとに実績を上げてくださって、発言者6さん、どうもありがとうございます。元々民生委員は静岡県から始まったわけですから、そういう児童委員もあわせてやっておりますけれども、少しずつなり手が少なくなっております。だれも望みませんけれども、しかし一人になる可能性があります。それから高齢は、これはもう人類普遍に、だれもが産まれて、そして病気なんかを克服しながら高齢になって、そしてこの世に別れを告げるときが来ますので、最後まで人間の尊厳を大事にして差し上げることがお互いのためだということで、それを引き受けていただいているのが民生委員の方であります。

そして私は民生委員のお世話になる方、それからさらに介護のお世話になる方が出てきます。世話にならざるを得なくなってくると思いますが、なるべくそれを少なくしようということで、健康寿命を延ばすということで、健康寿命日本一の静岡県でしょう。ですから健康寿命を延ばすということは、実は人のためになるんですね。

そのためにはウォーキングとかスポーツとか、社会参加だとか、それから食材をバランスよく食べるとか、その制限のあたりまで皆様の体にあわせて健康を保持するということは、世界に対する自慢ですし、今日本一ですから、厚労省からもゴールドメダルをもらっているわけです。そういうところにおります。

しかし介護が必要です。その介護についても、私どもは何とか、介護はきついんですね。それをきつくないようにするための技術を持たないといけません。その技術を持っている、大体3、4年ぐらいたつとやめようかなと思う人が出てくるので、その人たちをナビゲーター、未来の介護ナビゲーターとして、この間27人、君たちがナビゲーターだと。学校に行ったらそれを紹介してほしいと、高校や中学に行ったら、なぜこういうものを志したのか。同時にそういう人たちに資格を差し上げることを通して報酬を上げていく。これは静岡県が初めて始めました。長くやると経験を積んでいるので、その分報酬を上げていく。今報酬が必ずしも十分じゃないので、せっかく優しい気持ちで介護の職員に入られたにもかかわらず離職していく人が出てくるので、この人たちをそうでないようにするために今一生懸命やっております。

ですから介護はこれから高齢化社会が来るので避けられません。差し当たってどういう人に対してもゆっくり耳を傾ける人が必要なんですね。聞くことのできる人、これがとて

も大事です。六十になって耳に順うというじゃないですか。十五にして学に志す、三十立ち、四十惑わず、不惑を通り越して起業する人も出てきます。五十天命を知る。六十耳に順う。人の話を聞けるようになるということですね。そういう能力を困っている人のために生かす。自分の苦しみを聞いてくれる人がいただけで半分以上すうっと楽になるということがあります。

そういうプロの仕事を民生委員の方々がやってくださっていますけれども、その同じ話でもそれを繰り返し聞いて差し上げて、初めてののように聞いて差し上げると。最近介護でも、学者が大学教授をやめて、そして介護の現場に入った人がいます。まだ40代ですけども、大学の教授をやめて、そして介護を。そしてその本が出まして、賞を取りまして、今沼津に住まわれている方ですけども、聞くとこれほどおもしろいことがないということで、彼女は「介護民俗学」という学問を立てちゃったんですよ。

これは要するに話を聞くことのおもしろさ、一人一人の人生が違いますので、一人一人にとって小説が書けるわけですね。それぞれ主人公です。自分が主人公、それを知らない若い青年がお年寄りから昔話を聞く、そのお仕事を聞く、人生を聞く、何とすばらしい授業を受けているんだというそういう話なんです。

ですからお話を聞くということは必ず勉強になっているはずですよ。ですからやはり聞くという事は学ぶということでもありますので、そういう意味でこの民生委員の方々に對する敬意を改めて持つと同時に、そういう仕事かもし舞い込んできたときには、ノーと言わないで、発言者6さんのような人たちがいらっしゃいますので、ぜひ御一緒に仕事をしてくださいと申し上げたいと存じます。ありがとうございました。

<発言者2>

せっかくですので、湖西連峰のハイキングコースを先ほど紹介させてもらったんですけども、おちばの里親水公園から、なおかつ上に大知波峠があるんですけども、その間の歩道も大分傷んできているものですから、直していただくように御協力をお願いいたします。

<県知事>

それは大変な道なんですか。

<発言者2>

岩場が多くなってまして、水が流れるものですから、なかなか歩くのに困難な状態になっております。

<県知事>

今日は前に3人、三銃士がいますが、その後ろに合計6人の、こちらで働いている彼と7人のサムライがいます。

<傍聴者1>

傍聴者1とありますが、学校でのいじめについてお聞きしたいんですけども、新聞紙上なんかで、まだいまだにいじめられて自殺されている方がいますけれども、去年だと思えますけれども、いじめの防止対策法ですか、法律ができたと思うんですけども、静岡県ではどういう対策を実施しようとしているか、知事さんにお聞きしたいんですけど。

<傍聴者2>

傍聴者2と申します。知事が最近取り組まれているサミットですか、サミットに取り組まれているんですね。浜松市、静岡市でこれをぜひやってもらいたい。というのは、三十数年前に遷都の話があったんですよ。今はなき社長をやっていた方が、浜名湖というのはスイスでいえばレマン湖だと、こんないいところがあるじゃないかと、こういうことをおっしゃっていました。

<傍聴者3>

傍聴者3でございます。私は川勝先生は、知事としての川勝先生よりか、学者としての川勝先生の方がなじみ深いんです。川勝理論は有名で、私は仏教学が専攻ですが、先生のお名前の本が出ますと、もう片っ端から買いたいです。2冊買ったんです。1冊買って、先生サインしてくださいと言ったら、同じ本だと。ことほどさように私は川勝理論に非常に敬意を表しております。

そこでちょっとお尋ねしたいんですが、原発問題で先生がトリウム発電を言われたことがありますね。そして研究所をつくることも言われたことがありますね。ところがその後さっぱり出てこないんですよ。もしお許しがあれば、その理由を聞きたいんですが、学問

をするものは大体の常識になっていたと思いますね。先生、いかがでしょうか。

<傍聴者4>

傍聴者4という者でございます。ここに1月3日の中日新聞があるんですが、浜松沿岸17.5キロ整備する防潮堤の植栽計画の原案ができましたというそういうニュースでございます。この防潮堤ができますと、海側と陸側に植栽をされるというそんなお話なんですが、合計80万本ぐらい植栽されるというような記事でございます。

この計画ができたということは、その植栽の苗の供給体制ということも多分計画に入っていると思うんですが、ある県民の方の意見で、せっかくそれだけやるんだったら、種を子供たちに配って、学校の教育として、それで3年とか4年育てさせて、管理させて、卒業時に寄附するといえますか、植栽祭りといえますか、そういうことで、あるいは一般県民も参加できるような、そういう仕組みがあるといいんじゃないか、そんな意見を聞いたことがあるんですが、そのあたりにつきましてどのような考え方をとられるか、伺いたいと思います。

<県知事>

4人の方々から御質問、御提言等をいただきましてありがとうございました。

いじめは静岡であろうと、日本であろうと、あつてはならないということで、もう不転の決意でいじめというものを許さぬというそういう姿勢で臨んでおります。具体的にはそれぞれの学校の事情もございますでしょうけれども、その姿勢は日本全体のトップをとってやっていきたいというふうに思っています。決して子供がそれを見過ごされた結果、生を絶つということがあつてはならないということでもあります。

それから傍聴者2さんの方からサミットですが、これは浜名湖でやるのがいいと思うんですよ。それは景色がきれいだということがあります。レマン湖と言われましたけれども、それから安全面でも、それからホテルの宿泊客数の部屋数のスイートというの、それなりの数ないといけないと。大体1国1,000人レベルで来るということなので、静岡県の浜松だけというわけにいかないで、今のところは静岡市も日本平ホテルのような景色のいいところがありますから、日本平からは富士山が見えますので、こちらは水ですね、山と水、山水ですから、こちらをいわゆる首脳サミット会場にし、閣僚会合などは向こうでと。

ただしこれをお決めになるのは、まずはやる気を持たないといけないので、私は頼まれて言ってくれと言われて言ったら、そのうちはしごを外されていて、びっくりしましたがけれども、もう一度、一旦言った以上はしっかりやろうということで今進めております。

こちらの浜松市長さんとも、また関係者ともお話を進めておりまして、秋口に3県ぐらい候補地が残されると思います。それから政府がお決めになるということで、どこが3県残ったかということはきっと報道されると思いますが、何とかその中に入りたいというふうに思っております。国会議員の方々、市民の方々、オール静岡で、これ必ず歴史に残りますから。

そして人が足りないとか、お金がかかるとか言っていますが、経済効果は洞爺湖サミットだけで300億円以上ですよ。ですから1,2億かかるといって、そんなところでしつぽ巻いて逃げるようなそんなことじゃだめなんです。市長さんはそんな人じゃないから、そういうことがございましたらやるということですね。

それから原発については、傍聴者3さんからもお話がございました。まず原子力基本法というのがございます。原子力基本法、そこにウラン、トリウムなど書かれているのでトリウムというのをどうしてやらないのかということ。トリウムというのは、ウランを燃やしますとプルトニウムという物質が出てきます。これは核兵器の材料になるんですね。この核兵器をつくらない、使わないというのが日本の基本的な姿勢で、その約束のもとに日本は原子力の平和利用ということで原発を動かしてきたわけです。

トリウムについて研究してないじゃないかということで、そういう提言をしたわけです。それで研究をどこでするのかといたら、原発の中でやればいい。そしたらあそこに研究所ができたんですよ。研究所ができたのであります。研究所をつくってもらったんですよ。もう2年前であります。勝手に研究してもらっても困るので、研究は公募しないといけないと。実は中部電力の方は、そんな原子力の安全ということに関心を今持たないですよ。ともかく公募してくださいと。

そしたら100件近くあったんですよ。その中から13件が選ばれました、1年で。そして1,000万出すということだったんですよ。1件につき1,000万かと思ったら、全部で1,000万。それでは交通費にもならないということで、ゼロが2つぐらい足らぬということで、ことし2年目に入りまして1億円の研究をやってもらっています。

つまり原発というのは、今5つの原子力発電の炉がありますね。1号機と2号機は、これはもう廃炉が決まっています。それから3、4、5というのは使用可能なわけです。そ

ここに今まで、何しろ 1970 年代に一番最初の 1 号機が稼働しました。ですから使用済みの核燃料というのがあるわけですよ。

使用済み核燃料というのを六ヶ所村に持って行って、そしてそこからまたプルトニウムを取り出して、そしてそれとウランと混ぜて MOX 燃料をつくって、またそのプルトニウムを核兵器に使わないということをしていこうということだったんですが、六ヶ所村の建設がもう滞っておりまして、ですから使用済みの核燃料が今 9,000 体くらい浜岡の中にあるんです。

ところが、使用済み核燃料を入れる場所のことを、ごみを入れておく場所のことを燃料プールといいます。燃料プールというのも容量があるでしょう。1 万體しかないんです。そうするとほとんど容量がありませんから、ですから動かすといったって、動かすということは古い燃料を取り出して燃料プールに入れて、新しい燃料を入れるということなんです。大体 30 体くらい入れ替えるわけです。だからあつという間に埋まるわけです。ですから実際に動かせる状態じゃないんですね。

じゃ動かさなければ安全でしょうか。使用済み核燃料というのは、実は崩壊熱を出しておりまして、そしてそれが 900 度ぐらいになりますと、燃料棒を囲っている被覆体というのがあります。これはジルコニウムというんですが、それが溶け始めるわけです。それは周りが水でありますから H_2O です。酸素と化合しまして酸化ジルコニウムというのになる。そうすると H_2O の H、水素ですね。水素が分離します。危ないでしょう。ですから止めていても危ないんですよ。

ですからどうしたらいいかという、それをどのように安全にしていくかということが大事で、ですから安全にするためにはどうしたらいいかといったら研究する以外にないんです。だから研究所をつくりなさいと。そしたらつくってくれたんです。しかも、トリウムの研究をしたいという人もいるし、やっているんですよ、トリウムの研究をやっている人も、今 14 件か 15 件の研究テーマで走っています。これはどういう研究をするかについても、静岡県は原子力安全防災会議というのがありまして、部会がたくさんございます。それ全部オープンにしてやっていますから。

相手のことを疑ってかかると相手も情報を出してくれない。だからもう徹底的に信頼して、だって私が一番心配しているのはあそこで働いている人です。あそこで 3,000 人働いている。今ああいう大きな工事をされていますから 4,000 人以上の人が働いている。その 3,000 人ぐらひは静岡県内の方です。御前崎を中心にしたそういう人たちは家族がいるでし

よう。1家族大体3人ですよ、今平均すると、3,000に3を掛けると1万人近い人たちが、自分のお兄さんやお父さんのそれによっているわけです。その人たちがやる気なくしたらどうなりますか。

行かれたらわかりますけど、巨大な組織ですよ、施設です。それでちょっとメンテナンスが怠ると大事故になりかねない。だから将来に夢を持ってしっかりとメンテナンスを、動いてなくてもメンテナンスを、維持管理をしていかなくちゃいけないと。

その維持管理するときには何か将来性がないといけない。あそこには360万キロワットの配電線があるんです、送電線ですね。360万キロワットです。巨大なものです。それが今送電しないで、電気をもたらしているんです。あなた方の大電力会社は発電して電気を配るのに、何で電気使っているんですかと。使うようにしてくださいと。例えば防潮堤の上に全部太陽光パネルを貼ったらどうですか。それでも中の電気ぐらいは賄えるでしょう。

そういうふうなことも含めて、あそこを安全技術の面から、どっちにしてもすべて廃炉になります。40年余りたちますと廃炉にしくちゃいけない。だから私は福島第1原発のあの1号機、2号機、3号機、あれは浜岡原子力発電所の1号機と2号機と同じ形なんです。

沸騰式圧力原子力といいまして、向こうはもうメルトダウンしているわけですから、とても危険でしょう。こちらはすごく安全ですよ。津波も来ないように、来ても大丈夫なようになっているし、非常用の電源も備えているし、水もちゃんとしているし、3,000億円以上かけているわけですから、そういうふうにして安全の中でやるから、ここでまず模擬的に廃炉の訓練をして、それから一番危険なところに行かれたらどうですかということを提言までして、大変感謝されています。

ですから私は人の役に立つために、と同時に一番そこで働いている人が自分の子供だ、自分の親父だ、自分の兄弟が働いていると思ったら心配でしょうがないでしょう。そういうつもりであそこ自体の安全性を確保するためにやるのが一番重要なことだと。

そのことが周りに住まわれている人たちの安全にも役に立つ。それをやるには、極めて高度な科学と技術の知識と技能が要りますし、人が要りますので、そういう人をそこで養成すると。これについては中部電力は反対していませんから。株主の立場上、いずれ動かしますと言っていますけれども、今申しましたようなことで、動かしても、仮に動かしてもですよ、すぐ止めざるを得ないような状況ですから、そんなことすると余計なことですから、だから使用済み核燃料はどうされるんですかと。しかも高いところに置いてあるん

ですよ、使用済み核燃料というのは。

だから福島第4号機、あれはもうすっ飛ばしちゃって、あそこに地震が来たら4号機に使用済み核燃料が下に落ちたらえらいことなんです。だから今1体ずつ運び込んでいるでしょう、別のところにね。そういうような同じ構造を持っていますから、安全のためにどうするかということが実は浜岡原子力発電所が危険だから廃炉にしろ、危険だから永久停止にしろということは実は同じ考えだとしても、それが安全になるということにつながらないんですね。それだけは御理解をいただきたいと思います。

それで掛川でもやっていますよ、掛川で。3万2,000本植えましたよ、あそこ、1カ月ほど前。子供たちがここはだれが植えたかとやっている。市民の人がやっているんですよ。しかもどういふものを植えるかというので、横浜国立大学の名誉教授がいまして、潜在自然植生、潜在的にここで一番こういうものを植えると自然に生えるという本来その土地にあった植生のものを選んでいただいている、専門家に、それを植えているんですよ。これは掛川方式ですね。そのやり方がよければ、それを真似ればいいと思います。

そして種はたくさんできますから、それをどのようにして子供たち、また市民の方たちがやるか。私はもう子供たちはもとより、市民の方全員で、そんなに長い海岸ではありませんから、それをやればいいと思う。防風林もありますでしょう。そういうのと一緒にやると学術的にも重要な注目を浴びると思いますよ。すばらしい御提言だと思います。ありがとうございました。